【研究論文】

学年担任が互いに学び合う道徳科の実践

キーワード：チームで行う道徳・学級を超えた道徳科の授業

浦　田　誠　一 (Urata Seiichi)

１　はじめに

(1)最近の子どもたちを取り巻く現状

近年、子どもたちに一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな学習支援が必要である。

また、多岐にわたる生徒指導上の課題への対応、学校や通学路などの安全確保、色々な要求を求める保護者への対応など学校が直面している課題は、複雑化しさらに多様化している。その中で、教師は多様な課題や時間に追われ、心身共に疲弊している。

目を地域に向けて見ると家族と地域社会のつながりが希薄化し孤立している。かつて、地域の教育力で育ってきた子どもたち、群という「集団」で育ってきてきた子どもたちを取り巻く環境が変化し、規範意識や社会性などの低下が顕著に見られる。

また、社会生活の中では、子どもたちへの虐待の増加、貧困問題の深刻化、最近ではヤングケアラーと言う言葉で象徴される若い世代が家族を介護することも問題化している。このように子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきている。こうした複合化された課題を解決し、子どもたちの教育環境の充実を図るためには、言うまでもなく、学校、家庭、地域の３者が互いに当事者意識を持ち、連携し協力し合っていくことが必要である。

２　学校での取り組み

(1)『義務教育９年間を見通した教科担任制のあり方について（報告)』から

前記したような状況を踏まえ、いくつか教育についての提案がされている。その中のひとつとして、文部科学省「令和３年７月　義務教育９年間を見通した指導体制のあり方等に関する検討会議より『義務教育９年間を見通した教科担任制のあり方について』(報告)」(以下「報告 R3」とする）が出されている。ここで言う、小学校における教科担任制

とは、先生ごとに担当する教科をきめ複数の学級で授業を行うことである。先の報告書の中では優先的に専科指導の対象とすべき教科として外国語、理科、算数及び体育が適当とされている。中学校での教科指導と類似している。

この報告書の中で小学校、特に小学校高学年段階を中心とした教科担任制の取り組みの効果について、以下のとおり示されている。

①授業の質の向上／学習内容の理解度・定着度の向上
②小中学校間の円滑な接続
③多面的な児童の理解
④教師の負担軽減」

といった観点等が確認されている。

(2)　4つの取り組みの効果を「報告R3」からの考察

①授業の質の向上／学習内容の理解度・定着度の向上

・教科担任制により「勉強がわかるようになった」という児童が93%（報告R3）という小学校がある。
・教材研究の充実により、各教科の面白さ・魅力をより児童に伝えられるようになり、児童の学びへの姿勢、モチベーションの一層の向上につながっていると教師が実感している。教師の担当教科の減・授業担当外の時間増に伴う教材研究の充実や同じ授業を複数実施することによる授業改善が図られ、児童の学習内容の理解や学力に高まりが見られる。

②小中学校間の円滑な接続

・児童が安心して進学し、中学校での学習・生活に順応しやすいといった点で小・中学校間の円滑な接続に寄与している状況が見られる。

③多面的な児童の理解

・複数の教師が教科指導に当たることを通じて、多面的な指導・支援ができていると考えられるほか、学級担任以外にも相談できる教師がいる児童の増加が見られる。

④教師の負担軽減

・学級担任の授業担当外の時間が増えることで教材研究の充実等とともに時間外勤務の縮減に寄与しているほか、授業交換を実施する場合を含め授業準備の効率化に繋がっている状況が見られる。

などである。

3　小学校教育での教科担任制のメリット・デメリットについて

(1)メリット

①授業の質の向上

はじめに、「授業の質の向上」があげられる。「報告」にもあるが、教科担任制では、

小学校においても先生方の専門性を生かした授業が受けられる。専門性のある授業を受けることで児童の向上が見られるだろう。授業者としての教師も同じ授業を数回行うことで授業力の向上が期待できる。

②より多くの目で児童を見守ることができる

２番目には今まで小学校では担任以外の教師による授業が少なく児童の見取りが偏ることもあった。教科担任制が行われると多くの教師の専門的な目で児童を見取ることができる。主観的な捉えから客観的な捉え、多角的な捉えができるようになる。担任以外に相談できる心の担任を持つこともできる。

③教師の負担軽減

３番目にあげられるのは教師の負担軽減である。今までの小学校では自分の専門外の教科も教えている。そのために、専門外の教科の教材研究に時間が取られてしまうことが多々あった。しかし、教科担任制を実施すると自分の得意な教科や専門の教科を教えることができるので教材研究の時間が大幅に減少するだろう。また、複数の学級で授業することで授業準備の時間も減る。このようなことが実質的な教師の負担軽減につながる。

(2)　デメリット

①専門外の教科を担当することも生じる

学校や学年に各教科の専門の教師がいるわけではない。専門外の教科の授業を行うことも多々ある。そのため、教師間で負担感の差が生まれることもある。

②時間割調整の大変さ

今までのように学級担任制であれば、時間割をある程度自由に変更できるが教科担任制になると時間割が固定されていく。そのため、急な時間割変更は他の学級に影響が及ぼす。

②児童の情報共有の時間確保

学級に係わる教師が多くなるとその学級の実態を共有しなければならない。そのためには、十分な時間の確保が必要となる。教師の多忙が問題視されている現在、勤務時間内でじっくりと話し合う時間が持てない可能性が生じてくる。

4　チームで取り組む学年経営の重要性

ここ 20 年、教育現場は大きく変化している。授業の中では、ICT の導入、個に応じた合理的配慮など。仕事にもコンピューターが導入され、以前では考えられなかったエアコンも完備されている。児童を取り巻く環境も児童自身も変化している。また、小学校でも教科担任制が導入されるようになったり、交換授業が行われるようになったりしてきている。以前のように担任は自分の学級だけを見ていればいいという学級王国的考えでは、児童や保護者への対応ができない。

小学校教育で大切にしたいことは、知徳体の調和のとれた児童の育成であり「安心安全の場所としての学校、一人一人がのびのびと生活できること。思いやりを持って他者と接することができること。」などとなろう。このように心も体も健全なる児童の育成を目指すため、本校の学校目標は

全体目標を「ふれあい学ぶ昭和っ子」

〇自ら学び考える子
〇認め合うやさしい子
〇命を守り、身心をきたえる子

としてその具現をはかっている。

その中で、本校ではワンチーム昭和小として学年として・学校として全児童を見守り向き合っている。

チーム昭和小で大切にする同僚性は次の６項目である。

① 児童に対して協働的に担任全員で接する
② 担任同士が得意なことを生かして、学年に広げる
③ 学年会などきまった時刻に集まって行う情報交換を大切にする
④ 学年において早い段階での統一した指導を行う
⑤ 学年の担任がアンテナを高くして情報を収集し互いに共有する
⑥ 問題に対して迅速に、チーム学年で解決にあたる

本研究は以上を踏まえて「チーム道徳」提案する。

5　学年全体で行う道徳科の授業「チーム道徳」

道徳の年間計画に位置付くものとして最近の小学校では道徳科の授業を学年担任がかわるがわる行う授業の方法がとられる学校もある。

この考えを特別の教科　道徳で考えると、担任が複数のクラスで同じ主題名の授業を行うことである。例えば学年 4 クラスの場合一人の担任教師が 4 クラスで同じ道徳の主題の授業を行うことが可能であろう。A 教師が１週目に１組の授業を行うとする。２週目は同じ主題の授業を２組で行い、３週目では３組で行い、４週目では４組で行うというものである。一人の教師が同じ主題の授業を４回行うことが可能である。複数回行うことで教材理解を深め授業も充実していくことが可能となる。道徳は他の教科等とは違い１時間の授業で終わってしまうことが多く、教師自身が省察して次に行かすことがなかなか難しいところもある。※２

具体例として

4 年生では A 先生が 4 クラスとも「世界に一つだけの花」　B 先生が「土曜日の学校」　C 先生が「思いやりって」　D 先生が「絵はがきと切手」の授業を行うことである。

A 先生が「世界に一つだけの花」を１くみ・2 組・3 組・4 組で授業をする方法である。

例　4年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

	1組	２組	３組	４組
第1週	世界に一つだけの花	土曜日の学校	思いやりって	絵はがきと切手
第2週	絵はがきと切手	世界に一つだけの花	土曜日の学校	思いやりって
第3週	思いやりって	絵はがきと切手	世界に一つだけの花	土曜日の学校
第4週	土曜日の学校	思いやりって	絵はがきと切手	世界に一つだけの花

※2021年度長野県北信地区A小学校４学年実践例　※１

３　学年全体で行う道徳科の授業の良さと困難点

(1) メリット

・１つの教材で授業を複数回できるので教師自身の授業力が向上する。
・自分の専門性と関連する内容の授業ができやすい。
・教師の多忙が議論されている中ひとつの主題の教材研究が深まり、児童のためになる。
・学年全体の児童の様子がわかりチームとして児童への指導ができやすい。
・主観的評価から客観的評価につながる。

(2) デメリット

・色々な主題についての道徳科の授業での児童の考え方や思いが授業を通して把握できない。個別支援や学級全体への指導見えない。
・道徳科は深く児童のことを理解している担任教師が中心になって授業をすることの方が児童は、本時の主題により迫ることができる。

と言う先行研究であげられている。※２

４ 質問用紙によるアンケート結果

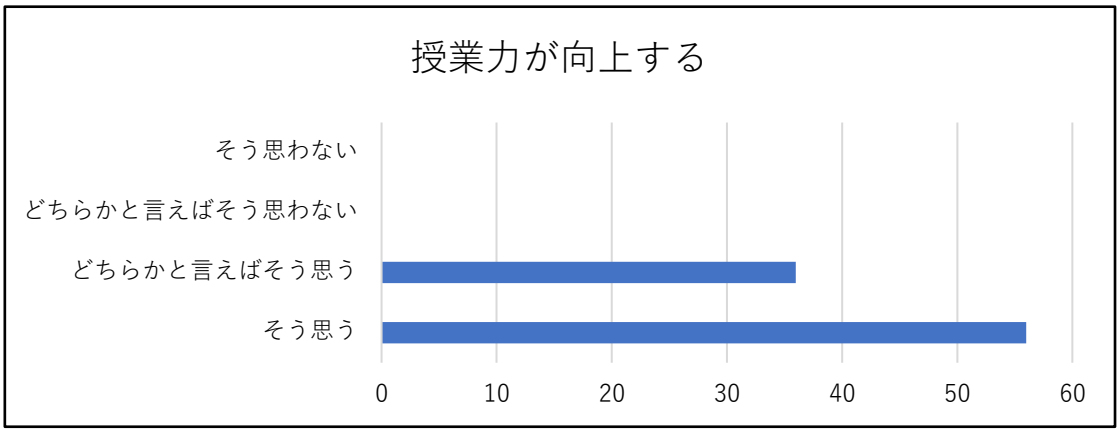
小学校6月27日～7月8日アンケートフォームズで実施　N＝25　※１

質問項目は「報告R3」を参考

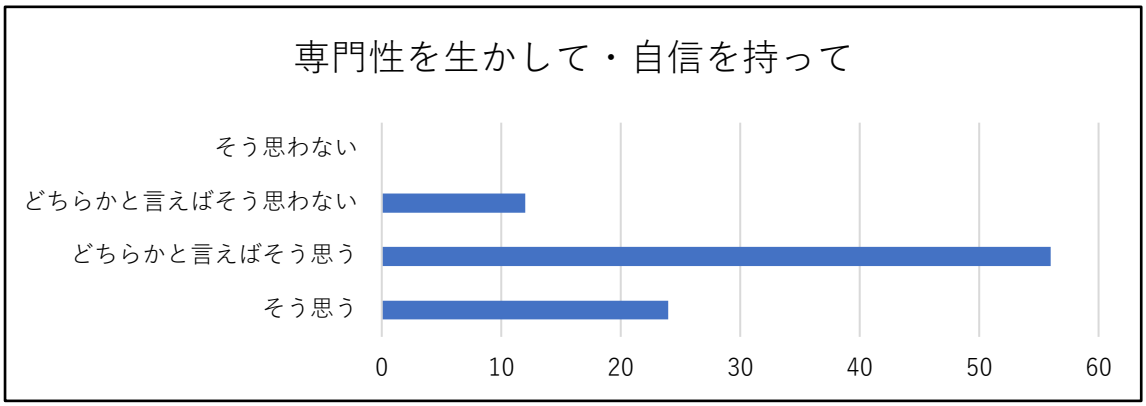
(1)　4件法によるアンケート結果から

①　１つの教材で授業を複数行うことで教師自身の授業力が向上する		
1	そう思う	56
2	どちらかと言えばそう思う	36
3	どちらかと言えばそう思わない	0

4	そう思わない	0

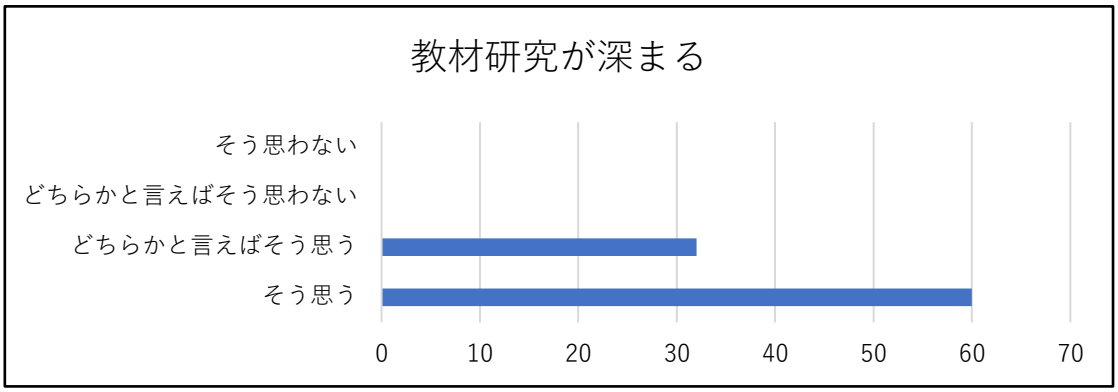


②自分の専門性の内容や自信を持てる内容の授業ができる		
1	そう思う	24
2	どちらかと言えばそう思う	56
3	どちらかと言えばそう思わない	12
4	そう思わない	0

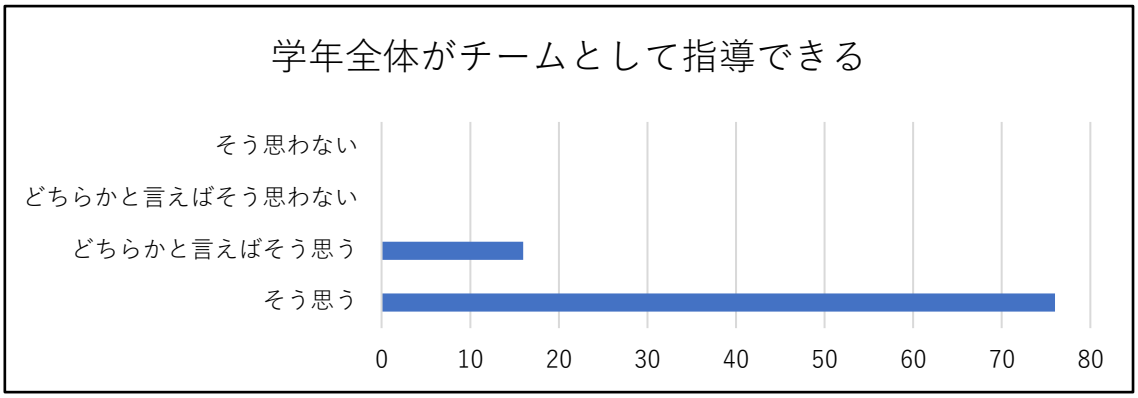


③教師の多忙が議論されている中ひとつの教材の教材研究が深まり児童のためになる		
1	そう思う	60
2	どちらかと言えばそう思う	32
3	どちらかと言えばそう思わない	0

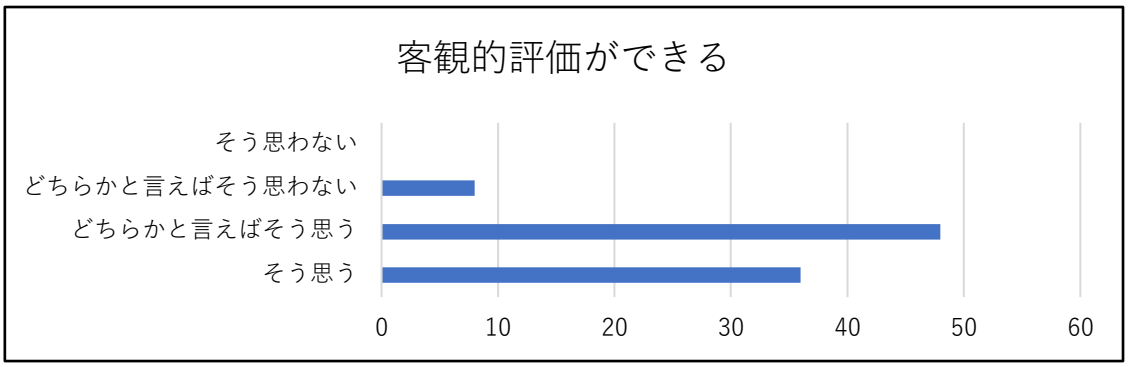
4	そう思わない	0



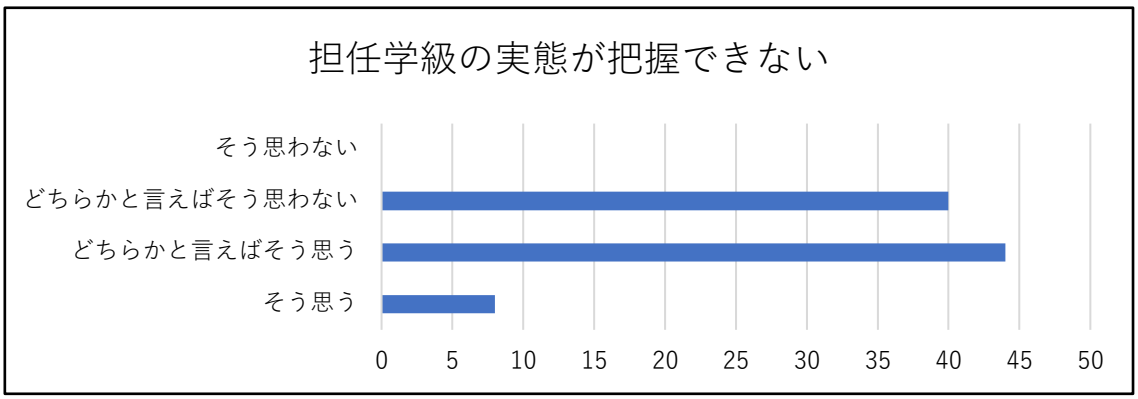
④学年全体の児童の様子がわかりチームとして児童への指導ができやすい		
1	そう思う	76
2	どちらかと言えばそう思う	16
3	どちらかと言えばそう思わない	0
4	そう思わない	0



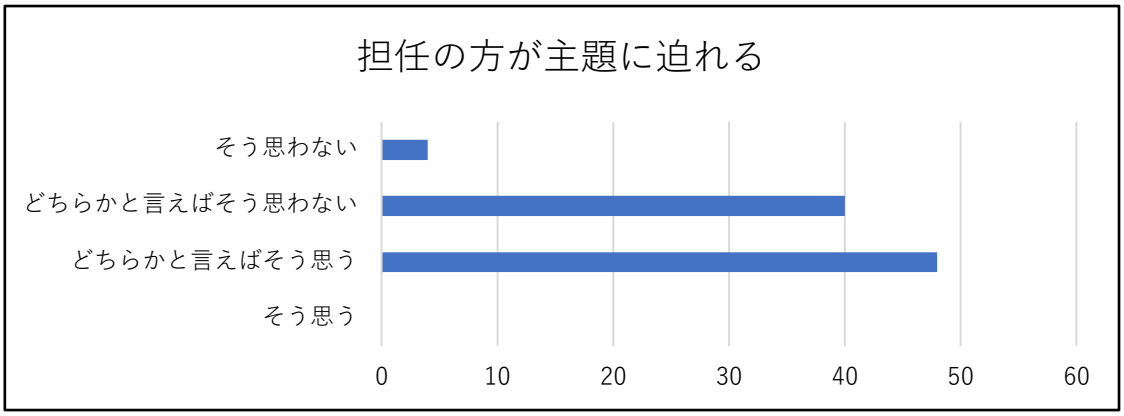
⑤主観的評価から客観的評価につながる		
1	そう思う	36
2	どちらかと言えばそう思う	48
3	どちらかと言えばそう思わない	8
4	そう思わない	0



⑥色々な教材について道徳科の授業での児童の考え方や思いが授業を通して把握できない。個別支援や学級全体指導の時に傾向がわからない。		
1	そう思う	8
2	どちらかと言えばそう思う	44
3	どちらかと言えばそう思わない	40
4	そう思わない	0



⑧担任が中心になって授業する方が児童は本児の主題により迫ることができる。		
1	そう思う	0
2	どちらかと言えばそう思う	48
3	どちらかと言えばそう思わない	40
4	そう思わない	4



５　アンケート質問項目以外のメリットとデメリット

(1)チーム道徳のメリット

①支援が必要な子どもや、学年会で上がってきた子どもについて、実際の様子を　見ていただくことで、共通理解や支援が広がる。

②子どもたちの反応を見ながら、教材の準備を少しずつ調整したり、見直したりすることができる。

③学年で統一した指導（児童にとっては経験）を蓄積できるので、進級クラス替え後に前のクラス間の差が少なくて済む。

④道徳に限らず児童にとってより多くの先生と関わることのできる良い機会だと思います。道徳に関して言えば、同題材を複数学級で扱うことで各学級の子どもたちの様子や特徴をとらえやすくなるのかなと思います。

(2)デメリット

①特に配慮が必要な子どもについて、事前に担任から話を聞いておく必要がある。

②クラスの実態により添えきれないことや、このクラスはここを重点的に取り扱いたいということが難しい。

③担任と授業実施教員間で、配慮すべき内容や児童について事前に共有する時間の確保が必要。

④２つのクラスの交換程度であれば情報共有もしやすいですが、３クラス４クラスに同じ内容の授業をする場合は、それぞれのクラスの子どもの様子を共有するだけの時間の確保が難しい。

6　考察１

(1)アンケート結果から示唆されること

〇道徳科の授業を学年で担当して行う一番の良さは、質問紙の達成率が 100%の結果から明

らかのように、教師の授業力の向上があげられる。
○教材研究が深まる点については、達成率が 100%であった。ひとつの主題を一人の教師が 3 回～4 回担当することで教科担任制のように教材研究が深まり強いては児童のより深い学びにつながると考える。
○「学年全体でチームとして指導できる」という点についての肯定率が 76%にもなっている。チームで行う学年経営について、このような授業形態を有効だと考える教師がほとんどであるという結果になっている。
○各教科の専門性が生かされるかというと「どちらかと言えばそう思う」と言う回答が多くそれほど生かされない可能性が見られる。
○デメリットとして考えられる 2 点「担任として学級全体の傾向がわからない」と「担任方が道徳科の時間はより主題に迫ることができる。」について回答が中間に集まる傾向が見て取れる。ということは、あまりデメリットとして考えていないか、そこまで考えるまでの知見がないかということであろう。

(2)アンケート質問項目以外メリット・デメリットから示唆されたこと
○支援の必要な児童についての共通理解が複数ででき学年内での支援の方法が広がる。
○学年内で統一した指導の蓄積ができ学級編成替えなどの時に参考にできる。
○学年の児童の様子や特徴を捉えて学年経営に生かすことができる。
③アンケート質問項目以外のデメリットについて
○担当する学級の様子や傾向を担任などから聞き取る時間が必要である。
○学級運営上で重点化したい内容項目の指導ができない。

6　2 学期の道徳指導についての提案

道徳科としての立場から考えると担任が授業をするメリットの方が多いと考えるが、今回の結果から考えると次のようになる。

学年内の担任がかわるがわる行う道徳の授業についてメリットもデメリットもあることを踏まえながら教科担任制と同じメリットを感じている転任が多いという結果になった。特に道徳科の週 1 時間の授業であるが学年経営上の児童支援において共通理解ができ有意義であると思われる。そこで、次のように道徳推進教員から提案する。

7　提案　※1

(1) 2022 年 9 月を「チームで道徳」月間とする。
(2) この期間　学年で「チーム道徳」に挑戦する
(3) 学年内の情報共有や指導計画は夏休みの学年会で行う。
(4) 実施後速やかに質問紙を用い省察し次の方向を明らかにする。

8　「チーム道徳」の実践　※１

(1)各学年授業実施

１年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

	１組	２組	３組	４組
第１週	とりかえっこ	あしたはえんそく	やめなさいよよ	二わのことり
第２週	二わのことり	とりかえっこ	あしたはえんそく	やめなさいよ
第３週	やめなさいよ	二わのことり	とりかえっこ	あしたはえんそく
第４週	あしたはえんそく	やめなさい	二わのことり	とりかえっこ

※2022 年度長野県北信地区 A 小学校 1 学年実践例

2 年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

	１組	２組	３組	
第１週	およげないリスさん	なかよしだけど	お月さまとコロ	
第２週	なかよしだけど	お月さまとコロ	およげないリスさん	
第３週	お月さまとコロ	およげないリスさん	なかよしだけど	
第４週				

※2022 年度長野県北信地区 A 小学校 2 学年実践例

3 年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

	１組	２組	３組	
第１週	きまりのない国	黄金の魚	大切なものは何ですか	
第２週	黄金の魚	大切なものは何ですか	きまりのない国	
第３週	大切なものは何ですか	きまりのない国	黄金の魚	
第４週				

※2022 年度長野県北信地区 A 小学校 3 学年実践例

4 年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

	1 組	２組	３組	
第 1 週	このままでしていたら	スーパーモンスターカード	正直五十円分	
第 2 週				
第 3 週	正直五十円分	このままにしていたら	スーパーモンスターカード	
第 4 週	スーパーモンスターカード	正直五十円分	このままにしていたら	

※2022 年度長野県北信地区 A 小学 4 学年実践例

5 年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

	1 組	２組	３組	４組
第 1 週	ドッジドール対決	同じでちがう	だれもが幸せになる社会を	ブランコ乗りとピエロ
第 2 週	ブランコ乗りとピエロ	ドッジドール対決	同じでちがう	だれもが幸せになる社会を
第 3 週	だれもが幸せになる社会を	ブランコ乗りとピエロ	ドッジドール対決	同じでちがう
第 4 週	同じでちがう	だれもが幸せになる社会を	ブランコ乗りとピエロ	ドッジドール対決

※2022 年度長野県北信地区 A 小学 5 学年実践例

6 年生　「きみがいちばんひかるとき」光村図書

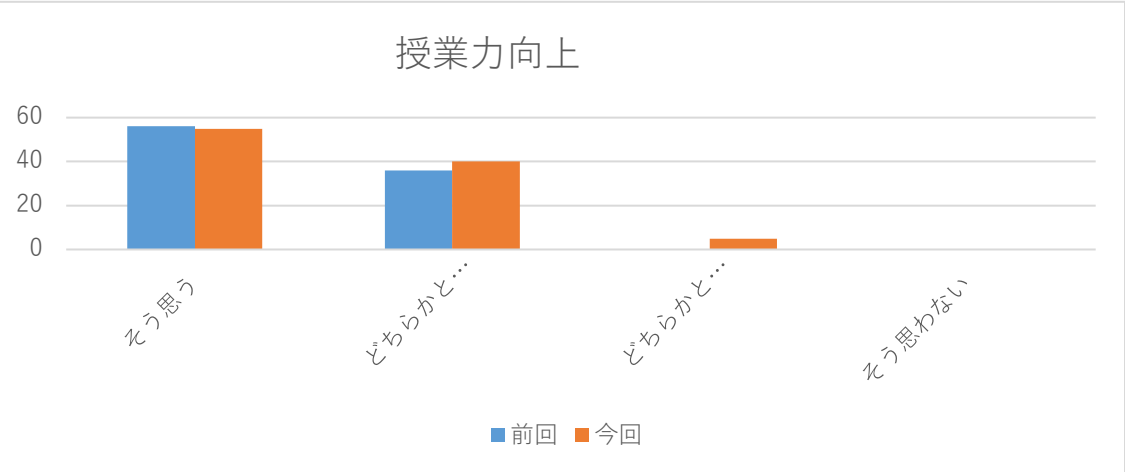
	1 組	２組	３組	
第 1 週	命の旅	世界人権宣言から学ぼう	海のゆりかご	
第 2 週	世界人権宣言から学ぼう	海のゆりかご	命の旅	
第 3 週				
第 4 週	海のゆりかご	命の旅	世界人権宣言から学ぼう	

※2022 年度長野県北信地区 A 小学校 6 学年実践例

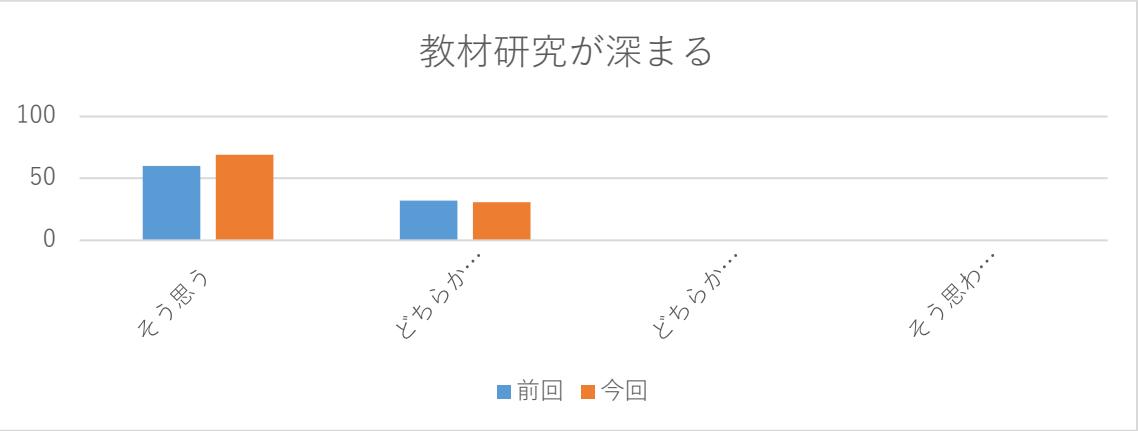
(2)質問紙調査　質問項目　メリットについて
・１つの教材で授業を複数回できるので教師自身の授業力が向上する。
・自分の専門性と関連する内容の授業ができやすい。⇒これは実施前のアンケートであまり有効にはたらかないという調査結果が出ているので「チーム道徳」実施後のアンケートでは質問しないことにする。
・教師の多忙が議論されている中ひとつの主題の教材研究が深まり、児童のためになる。
・学年全体の児童の様子がわかりチームとして児童への指導ができやすい。
・主観的評価から客観的評価につながる。
(3)質問紙調査　質問項目　デメリットについて
・色々な主題についての道徳科の授業での児童の考え方や思いが授業を通して把握できない。個別支援や学級全体への指導見えない。
・道徳科は深く児童のことを理解している担任教師が中心になって授業をすることの方が児童は、本時の主題により迫ることができる。

8　アンケート実践結果　N=29　　単位%
（1）質問紙アンケート

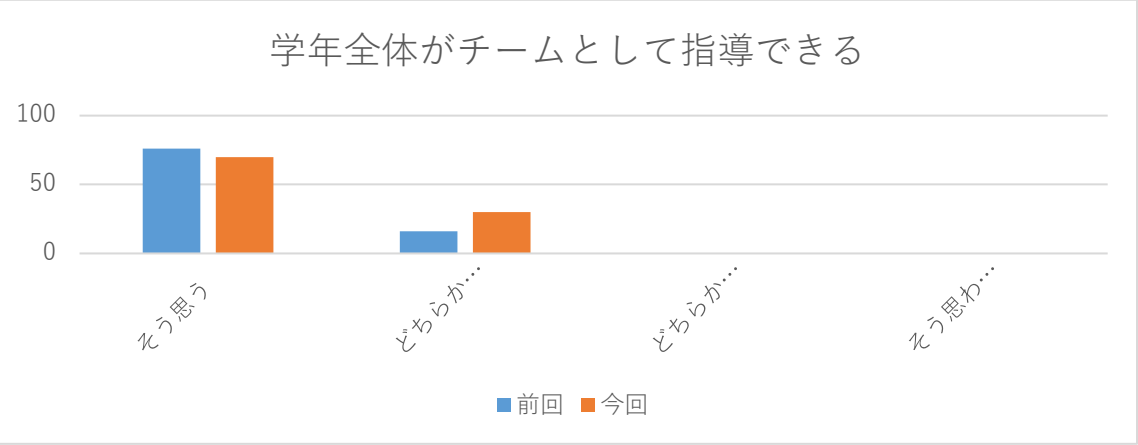
①　１つの教材で授業を複数行うことで教師自身の授業力が向上する。			
	項目	前回	今回
1	そう思う	56	55
2	どちらかと言えばそう思う	36	40
3	どちらかと言えばそう思わない	0	5
4	そう思わない	0	0



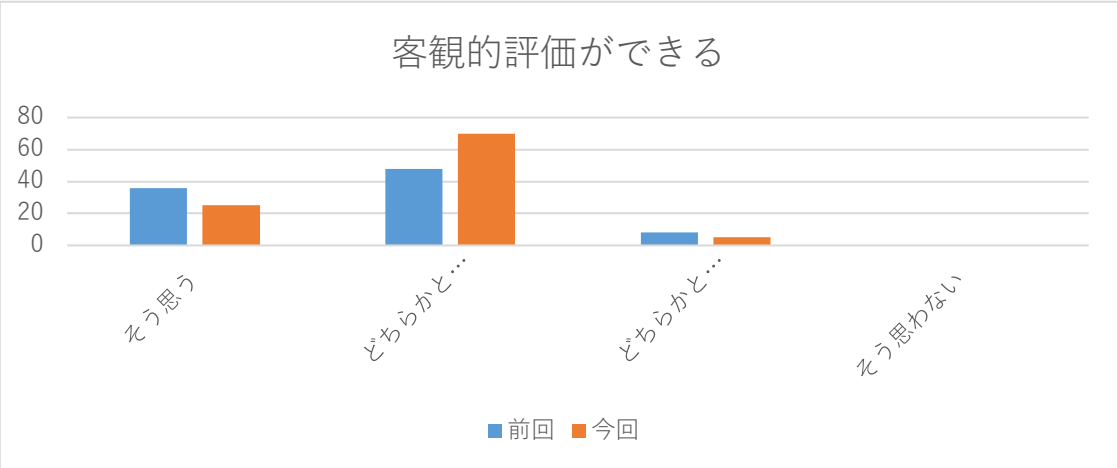
②　教師の多忙が論議されている中ひとつの教材の教材研究が深まり児童のためになる。			
	項目	前回	今回
1	そう思う	60	69
2	どちらかと言えばそう思う	32	31
3	どちらかと言えばそう思わない	0	0
4	そう思わない	0	0



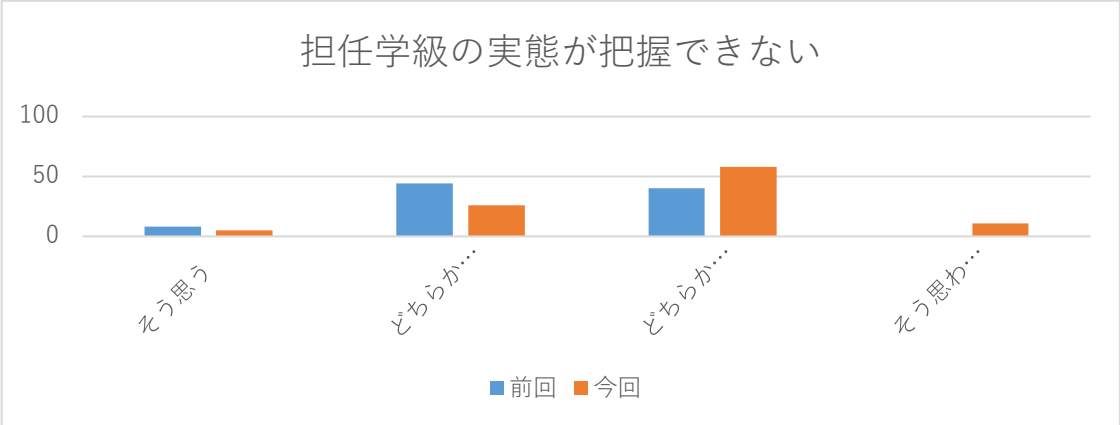
③　学年全体の児童の様子がわかりチームとしての児童への指導ができやすい。			
	項目	前回	今回
1	そう思う	76	70
2	どちらかと言えばそう思う	16	30
3	どちらかと言えばそう思わない	0	0
4	そう思わない	0	0



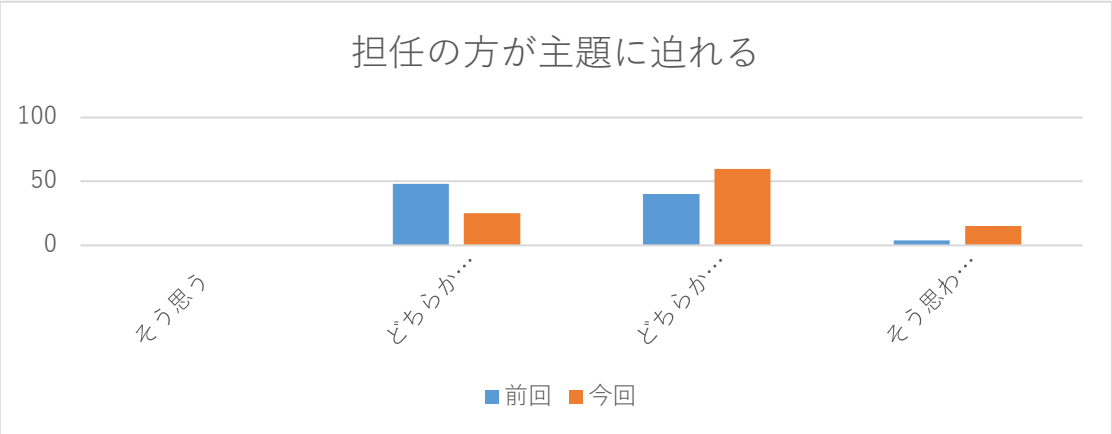
④　主体的評価から客観的評価につながる。			
	項目	前回	今回
1	そう思う	36	25
2	どちらかと言えばそう思う	48	70
3	どちらかと言えばそう思わない	8	5
4	そう思わない	0	0



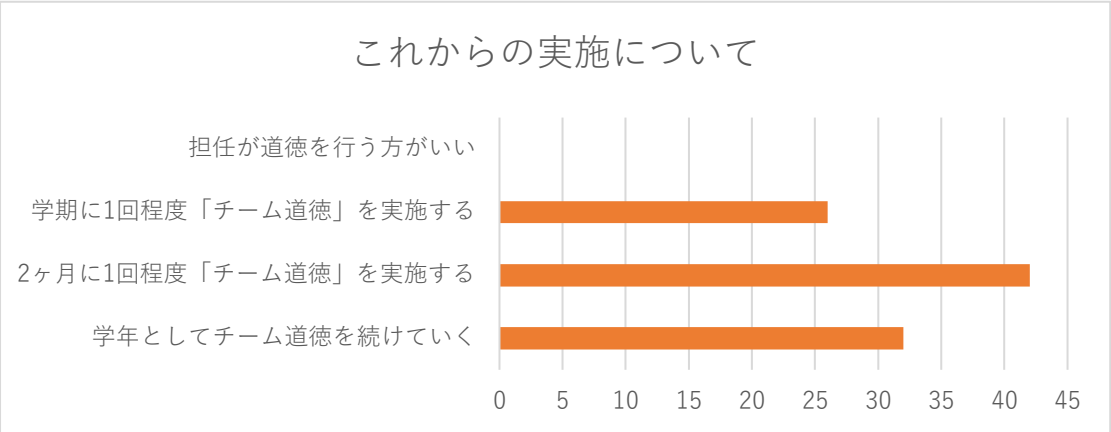
⑤　色々な教材についての児童の考え方や思いが授業を通して把握できない。個別支援や学級全体の指導の時担任学級の傾向がわからない。			
	項目	前回	今回
1	そう思う	8	5
2	どちらかと言えばそう思う	44	26
3	どちらかと言えばそう思わない	40	58
4	そう思わない	0	11



⑥　担任中心に授業する方が児童は主題により迫ることができる。			
	項目	前回	今回
1	そう思う	0	0
2	どちらかと言えばそう思う	48	25
3	どちらかと言えばそう思わない	40	60
4	そう思わない	4	15



⑦　これからの「チーム道徳」についてお聞かせください。		
	項目	今回
1	学年としてチーム道徳を続けていく	32
2	2ヶ月に1回程度「チーム道徳」を実施する	42
3	学期に1回程度「チーム道徳」を実施する	26
4	担任が道徳を行う方がいい	0



(2)「チーム道徳」のメリット・デメリット　記入式アンケートから

①メリット

・他クラスの子どもの様子がわかり、他クラスのこどもとつながりができ、いろいろな場面で指導に生かせる。
・子どもも、新鮮さと緊張感をもって臨める。
・教材研究の効率がよい。
・児童理解の話が、多面的にできる。
・担任でない先生が行う授業での子どもたちの様子が違っておもしろい。この子にそういう面があったんだと新たな発見につながる。
・道徳が楽しい、と感じる子どもが増えてきた。
・教材研究の時間が減る。
・学年が一つになって子どもたちをみることができる。
・自分のクラス以外の子たちがどんな考えを持っているのか見たり、共有することができたりする。
・１つの主題をいつも同じ方法ではなく、少し変えてみるなど工夫ができる。
・ほかのクラスの様子がわかり、児童理解につながる。一つの教材を何回も指導できるので、授業改善につながる。
・他クラスの児童の様子を知ることができるチャンスになる。学年会等で話題になったときにイメージができ、児童理解がしやすくなる。
・道徳に限りませんが、他クラスの児童を知ることができ、学年全体で子供達を見ていくことができる。子供達もより多くの先生方に教えてもらうことで、様々な教え方を知り、自分に合った先生のもとで学習を深める児童もいる。
・支援が必要な児童について、他の先生にも見てもらえて支援の方向について話ができる。
・クラスの児童について「この子がそんなことを！」と思うようないい姿を教えてもらえた。
・毎週新しい教材に追われなくてよく、時間の余裕ができた。

②デメリット

・担任ほどには一人一人の児童理解ができていないので、個別支援等足りないところができてしまう。→担任同士情報交換し、改善していけるとよい。
・自分だったらこんなふうにやってみたい・・・ということが実践できない。そのかわり一つの教材をより考えてできるのだから、単純にデメリットといえない側面もある。
・個々の児童のことがよくわからない中で意見を求めるので、授業がすすめにくい。評価できる自分のクラスの単元が限られてしまう。
・時間割を合わせることが大変。
・ずっと行っていくとなると、教科担任制も行っているので授業の調整が難しい時がある。
・自分のクラスのことがわからず、通知表の所見を書くときに悩む。
・他教科でも交換をしているため、日程調整が難しい。

・評価については難しいところがある。通知票に表す上で、どのような記述をするのかは結局のところ担任によるかと思う。しかし、明確なデメリットは無いと思う。
・「自分のクラスにこの教材をぶつけたい！」と願うものは自分で行ったほうがよいと思う。今回は教材を順番で決めたが、もう少し考えた方がよいかもしれない。
・子どもたちの姿は共有できてよいが、3クラスで1時間ずつの評価まで共有する時間は厳しい。いい方法があるか。通知表には、自分で行った教材についての方が書きやすい。

10　研究結果

(1)チーム道徳実践後のアンケート結果より

〇道徳科の授業を学年で担当して行う授業の良さは授業力向上面での達成率は 2 回とも100%であった。この結果から「チーム道徳」は教師の授業力が向上する要素を持つと考えられる。

〇教材研究が深まると回答した教師は 2 回目では約 70%であった。道徳科の教材研究は悩んでしまったり、単発の授業であったりと難しい面もあるが「チーム道徳」だと同じ主題の授業を数回実践したり、その中でも工夫したりするため教材研究が深まると示唆される。

〇学年全体の児童把握についての達成率は 2 回とも 100%であった。また、記述式アンケートにも多くの教職員が「他の学級の児童の様子がわかる。」「児童理解の話が多面的にできる。」などの回答が多かった。「チームで行う学年経営」にも児童理解という点で有効である。

〇教師の多忙軽減についても達成率が 100%となり、有効と思われる。記述式アンケートでも「時間的余裕が生まれた」「教材研究の時間が減少した。」という回答があり、業務削減にもつながる。

〇客観的な評価については達成率が 100%とはいかない。このことは、記述式アンケートにもあるように通知表や学習指導要領の「道徳科」の評価の面でどうすればいいか考えなければならないことが課題のひとつとして見えてきた。
また、やはり、情報交換する時間が持てないという悩みを感じる教職員もいる。

〇1 回目調査では、学級担任が行う道徳科の授業の方が「主題に迫れる。」「担任している学級の児童の様子がわかる。」回答した教職員が多かったが、「チーム道徳」実践後の 2 回目の調査では、「チーム道徳」でも主題に迫ることができ、実態把握もできると考える教職員が達成率で 70～75%と増加している。「チーム道徳」でも学級担任が行う道徳と同じように実態が把握できたり題に迫ることができたりすることを示唆している。

今回の「チーム道徳」の実践結果から「小学校における教科担任制」同様に教師としての授業力が向上し、教材研究が深まり、多忙軽減につながることがわかた。また、」「チー

ム学年会」という視点でも児童の様子がより理解でき個別の支援にも有効であることが示唆された。しかし、道徳科の評価の面ではどのように評価すればいいか今後の課題として見えてきた。
「チーム道徳」の有効性を考え最後のアンケート結果から見えてきたことは、今回の取り組みを１回のみに終わることなく、これからも続けていくことの良さが指摘されている。
※達成率とは『そう思う』『どちらかといえばそう思う』を足した数値のことを示す。

11　調査対象
長野県北部地区Ａ小学校教職員対象※1

12　参考文献

・貝塚茂樹・林　泰成.『道徳教育論』.2021.放送大学教育振興会.放送大学教材　※2
・令和３年７月　義務教育９年間を見通した指導体制のあり方等に関する検討会議より
『義務教育９年間を見通した教科担任制のあり方について（報告)』文部科学省
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/159/mext_00904.html
R4.10.17

※1については長野県北部地区Ａ小学校
※2については承諾を受けている。

受理日：2022年12月17日

浦田 誠一
八洲学園大学　リカレント研究センター　リカレント研究員